

令和4年度 体力向上における各校の成果(小学校)

若狭町

教育委員会

No	学校名		成 果
1	三方	小学校	<p>体力テストの結果において、おおむね良い結果が得られたのは「握力」、「反復横跳び」である。どちらも5・6年ともに、昨年度よりも良い結果となった。</p> <p>(握力→5年男子;+3.6kg、5年女子;+4.08kg、6年男子;+2.3kg、6年女子;+1.86kg、反復横とび→5年男子;+4.3点、5年女子;+2.08点、6年男子;+4.72点6年女子;+2.78回)</p> <p>基礎体力を高める取り組みが効果的であったと考えられる。</p> <p>各委員会の取り組み、体育大会や陸上記録会に向けた練習、外遊びの奨励等によって、運動量を多く確保することができた。</p>
2	気山	小学校	<p>昨年は、コロナウイルス感染者の増大により、なわとび大会を実施することができなかったが、今年度は実施することができ、大会に向けて、児童同士切磋琢磨しながら、これまでの記録を更新しようと、授業以外にも取り組む姿が見られた。</p> <p>今年度は陸上記録会を町内参集型で実施することができ、他校の児童を意識して、昨年よりも意欲的に練習にも取り組むことができ、自らの体力向上を実感する機会を確保することができた。</p> <p>水泳学習も昨年は実施することができなかったが、今年度は実施することができた。泳力が落ちている児童が多かったため、来年度以降も引き続き実施できるようにしていきたい。</p>
3	梅の里	小学校	<p>「梅の里長距離フェスティバル」に向けた練習を積み重ねることで、本番では練習時から記録を伸ばした児童が約9割となった。コロナ禍での開催だったが、児童同士が十分な距離を取り、精一杯応援する姿も見られた。児童の感想から、運動(走る)が「好き」になったと書いている児童も多いた。</p>
4	みそみ	小学校	<p>学習カードや動画を詳しく見て運動への見通しが持てたことで、体育授業以外にも休み時間に取り組む児童の姿が多かった。</p> <p>朝マラソンやなわとびで「児童が目標に向かって意欲的に取り組めるようにできたか」に対する教職員のふり返りでは、「できた・どちらかといえばできた:100%」であった。また、児童が「目標を持って取り組めたかどうか」においても「できた・どちらかといえばできた:95%」であった。</p>
5	鳥羽	小学校	<p>学校評価アンケートによる自己評価では、運動や体を動かすことに自分なりに目標をもって取り組めたと肯定的に回答した児童が約95%いた。</p> <p>また、鳥羽スマートルール(ネットルール)の意識向上を目指した取り組みを行った。保護者アンケートで、児童が鳥羽スマートルールを意識して生活していたと肯定的に回答した保護者は、1学期約7割、2学期約8割と改善が見られた。</p> <p>学年ごとの課題に即した補助運動の成果として、昨年度の体力テストで課題であった現6年男女の上体起こしの項目は大幅に改善した。また、5年男子の持久力においても大幅な改善が見られた。</p>
6	瓜生	小学校	<p>体育的行事の前後に、全児童を対象に「目標の達成に向けて工夫したり、挑戦したりすることができるか」というアンケートをとったところ、すべての行事でその数値が高まった。全教員が行事を通して身につけさせたい力を明確に共有することで、児童が目的をもって取り組むことができた結果だと思われる。</p>
7	熊川	小学校	<p>委員会主催の催し物は、児童が主体的に活動する場として重要な時間となっている。学校教育目標を具現化する内容であり、児童が学校教育目標を言えるほど、目標を意識できる活動となっている。</p> <p>また、小規模校の利点を生かし、能力別に指導ができる体制を組織した。特に水泳学習やスキー教室では、児童一人一人に合った指導ができたことで、意欲や技術が向上した。</p>
8	三宅	小学校	<p>縦割り遊びを年間通して行うことや、他の学年を誘って異学年で遊ぶ機会を多く設けることによって、遊びのバリエーションが増えた。</p> <p>全校共通の体育カードを活用することで、児童は目標を立てて運動に臨むことができた。(体育的活動で自分なりの目標を持って意欲的に取り組めた児童:99%)</p>
9	野木	小学校	<p>マラソン大会では、全員が時間内に完走することができた。目標を持って業間マラソンに取り組む、日々の積み重ねの成果が表れていると感じる。</p> <p>「目標を持ち体力づくりに挑戦できた」の問いに、90%以上の児童が「できた」と回答した。</p>